

# 子どもと育つ

「節電」「食」などをテーマに家庭で話し合う「親子会議」を、各地の小学校が推進している。家族同士のコミュニケーションシオン不足を指摘する声もある中、対話を促そうという学校から家庭への働きかけだ。

(小形佳奈)

## 学校が勧める

東京都荒川区立第九峡田小学校は、昨年度から親子会議を取り入れた。五年生の西村正明くん(この家庭におじゃますると)。

「電気はみんな、こまめに消してるよね」「まだ使えるのに省エネ製品に買い替えるのはエコじゃないよ」

家族五人が居間に集まり、正明くんの司会で節電・節水をテーマに意見をかわしていた。一緒に暮らす祖母美智子さん(左)も初参加。野菜を洗った水をためてトイレの水を流す節水策に「おばあちゃん、すごい！」同感心する。

母秀子さん(左)は「初めは面倒な気もしたが、みんなの意見が聞けるし、日ごろの会話も増えた」と話す。正明くんの司会ぶりや議事録をまとめる様子に成長も感じるといふ。

同小の親子会議は、大震災直後の昨年四月に着任した矢田泰久校長が、親子の絆を深めてほしいと提案。話し合いの内容を記入した用紙に担任と校長がコメントを添えて家庭に返す。昨年度に続き、本年度も六回行う予定だ。

茨城県小美玉市立堅倉小学校では、一昨年に親子会議を始めた。細谷光太郎前校長は「規則正しい生活や家庭学習の定着など、日ごろ教職員が

# 親子会議

「夏休み」をテーマにした小美玉市立堅倉小の親子会議シート

## 節電、食、わが家のルール



「節電・節水」をテーマに親子会議を開く西村さん一家＝東京都荒川区で

# 成長感じ、絆深めて

家庭に伝えたいと思っていることが、保護者に伝わっていないことが学校評価アンケートで明らかになったのがきっかけ」と話す。

子どもと関わる時間が十分取れないと悩む保護者も目立ったため、学校が意図的に家族で話し合う機会を設けることにした。「わが家のルール」

「家庭学習」など、テーマは教職員が設定している。石塚昌義教頭は「初めは、宿題だから仕方なくと思われるもよい。何度か試みるうちに、親も含めて家庭での過ごし方を考え直した、家族の意外な一面を知った」などの感想も寄せられるようになった」と手応えを語る。

子どもと関わる時間が十分取れないと悩む保護者も目立ったため、学校が意図的に家族で話し合う機会を設けることにした。「わが家のルール」

(第2回) 堅倉小親子会議シート

【配布日】6月8日(木)～【提出日】7月2日(月)  
※ 各校が家のオリジナル会話を記入しよう

学年	組	名前
※ 兄弟姉妹がいても、1人1枚作成して、担任の先生に届けます。		
◎ 第2回親子会議のテーマは		
○○○の夏休み！です		
<p>・お願い！ あらすいど映画の主役様に、不思議なものだ、子どものころは大人になてなれないに、大人になれば「ときどき」思っでいづれでも子どもになる、という夢がありました。小学生のみなさんは小学生の感想で、大人のみなさんは「ときどき」子どもに戻って話し合ってください。</p> <p>・家庭のみなさんの小学校時代の夏休みの思い出は？</p>		
この夏休みで、わたし(ぼく)がしてみたいことは何ですか？		
家庭からみて、わたし(ぼく)にチャレンジしてほしいことは何ですか？		
今年の夏休みの○○さん(○○さん)のめあてをたてよう。		

鳥取県では「ノーテレビデー」をきっかけに六、七年前から広がった。「定期的にテレビを見ない日を決めて親子が関わる時間を持つ」と、小中学校のPTAで話し合いや読書を勧めているところが多い(県教育委員会家庭・地域教育課)。

法政大文学部の渡辺弥生教授(発達心理学)は「表面的な会話が多く、心の通い合うコミュニケーションができていない家庭も確かにある」と指摘する。「それを真正面から保護者に言う」と煙たがられる。年数回の行事にすることでそうした家庭を救う意味もあるのでは」と親子会議の意味を語る。

ただし「やりっ放しではだめ。学校の狙いを保護者に示し、テーマをしっかりと、結果を教育の場で活用できるように取り組みにしないと。もったいない」と注文する。

話し合いを充実させるには「子どもの話をうなずきながらしっかりと聞く。そして『なぜそう思うの?』など、イエス・ノーで答えられない質問をして考えさせる。親の意見を言うのはそれから」と渡辺教授。聞き上手が話し上手を育てるといふ。